

のみ商業協同組合との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和6年2月2日（金）19時～20時

会 場 寺井地区公民館 201会議室

参加人数 14人

○はじめに

【市長】

- ・今年初めてのカフェトークでもあり、タウンミーティングの機会をいただき、ありがとうございます。震災について皆様にご報告をさせていただく。
- ・能美市では、罹災証明書等で約1,000件の申請があり、九谷焼の業界等々で大きな被害が出ているが、人的な被害は確認されていない。
- ・現在は市内の復興・復旧に取り組んでいるとともに、被災地への様々な支援を行っている。大きく分けて2つあり、1つは被災地への人的・物的支援。今日も職員が2名、そして消防職員が3名行っている。もう1つは、避難者の受入れで、今約140名が旅館、ホテル、辰口福祉会館に滞在いただいている。
- ・様々な課題が見えてきており、1つはご親戚や友人の家に身を寄せていらっしゃる被災者が結構増えてきていて、我々が把握するのが難しくなかなか支援メニューをお伝えできていないという状況がある。
- ・2つ目の課題は、これから長期化していく可能性がある、例えばこれまではお風呂に入って、ご飯を食べて、ゆっくり寝ればよいということだったかもしれないが、床屋に行きたい、病院に行きたい、だんだん体がなまってくるので運動したい等の要望があり、そんなことに対してどうやって寄り添っていくか。昨日も商工会青年部の部長さん、それから女性団体の会長さん、防災士会の会長さん、医師会やケアマネさん等に集まいただき、ネットワーク会議を行い、ご要望や変わりゆく避難者の対応に対して、どうやってみんなで協力してやっていくかを協議していた。

○デジタル化について

【市長】今日は、主にデジタル化について。事前にデジタル推進課と商工課に確認したら、

かなり説明はしてあるという話を聞いているので少し安心している。

【参加者】市長の思いとして、こういった方向で進んでいかれたいのかをお聞きしたい。

【市長】

・以前からのみ商業協同組合さんがお使いのカードが使えなくなるので、代わりになる新しいシステムを入れたいということで、これまでも県内いろいろと視察に行かれていてどれがいいかを絞ってきていた。そんな中で、北國銀行さんがトチポという仕組みをつくられて、珠洲市に導入をされた。珠洲市で一定の成果と実績も上げられたことから、石川県がトチポを県内全域の市町に導入をしていけばという、現時点はそんな状況。

・石川県がどうしてトチポを導入していきたいかという、例えば何かプレミアムパスポートみたいなものを発行するとすれば、住所も調べなくちゃならないし、発行するのにいろいろと経費もかかるというようなこと、あるいは県民がどこで何を買っているのかというような生活の状況を把握もしたいという点等からトチポを導入していきたいと考えているようで、能美市としてもトチポを導入することで、皆さんが考えてらっしゃるシステムの代替になればと思っている。

・トチポという仕組みですが、P a y P a y に似ていて、県民・市民がデジタル通貨にポイントを換え、商店で買物をするときにはお店にあるQRコードにかざして支払い、商店にそのポイントが落ちるという仕組みになっていて、初期投資は今のところ要らないと聞いている。

・皆さんには、使用する場合の使用負担金0.5ポイント。一般的なクレジットカードの場合は3%から5%なので、一般のクレジットカードから比べるとかなり低いですし、初期投資もないということから、恐らくメリットはあるんじゃないかと思っている。

・懸念されているのみ商業協同組合独自のポイント制度、これは現時点ではまだ北國銀行は整備ができていないが、そういった独自のポイントがつくような仕組みを欲しいという声が方々から出ているようで、北國銀行も検討していると聞いている。

・我々とする、令和6年度中にはトチポを導入したいという思いはあるが、例えばのみ商業協同組合さんのほうがオリジナルのポイント制度の仕組みができるまでは難しいということであれば、そこは導入時期を皆さんと相談しながら決めていければいいんじゃないかというのが私の思い。

・能美市にとって導入するメリットは、市民がどこでどんな買物をされていてどれくらいお金を落としていらっしゃるのか、あるいは市外あるいは県外の人たちが能美市に来られ

てどこのお店で何を買ってらっしゃるのかというような情報を我々も把握できることから、今後いろんな施策にそういった情報も使えるんじゃないかという思いもあって、能美市としてもトチポを導入できればと前向きに検討している状況。

【参加者】地震の影響で少し遅れが出ているとちょっと聞こえてきている。その辺のスケジュールというのは調整が入りそうか。

【市長】それは間違いない。やはり地震対応で県の職員が震災対応にかかりきりで少し遅れるという話は聞いている。ただ具体的にいつになるかまではこちらにはまだ聞こえていない。

【参加者】早ければ4月以降、来年度の夏頃に県の給付金的なもので何か使われるというのが一番最初になるんじゃないかとお聞きしていたが、その辺もずれてきそうな感じか。

【市長】全くその辺の情報は市にはまだ入ってきていない。

【参加者】

・北國銀行は、全県にトチツーカー、トチポを普及させていくのがまず第一で、そのために今一生懸命開発もし、県にも説明し努力されていると聞いている。その後の段階で商業団体向けのアプリなりを開発していく、その際には我々だったり、その他の商業団体も手を挙げてらっしゃるということなので、一緒になってひな形になるようなものを北國銀行さんもつくりたいとお聞きしている。実際には県や各自治体の承認が得られてからだと思うので、あまりオープンな動きは多分どこもできない。いろんな状況を見つつ、我々も動かなきゃいけないと思っている。

・今、市がデジタル通貨、地域通貨を導入されようとしている。我々もそれを一緒になって勉強してきた結果を、商工会の各部会の総会の席で、今後能美市としてこういった通貨が導入されようとしている、その中で商業団体だけではなくて、いろんな部会の事業者さんも活用できる場所があるかもしれない。今後のこの通貨の動向に注目していただければと宣伝をした上で、我々の次期システムの加盟店、取扱い店になっていただくようお願いも併せてしていこうと思っている。できれば市内全域でいろんなお店で使えるように、一体となってお願いをしていき、今まで加盟店でなかったところ、事業者さんも含めて仲間になってもらえればとお願いをしていきたいと考えている。

【市長】

・能美市にとってこれを導入していくメリットが他にもある。例えば間もなくのみ応援特典券を発行するが、デジタル通貨に替えていったりや、これから能美市でポイントラリー

やeスポーツ、カーボンニュートラルに取り組んでいる人たちに何かポイントを付与しようとか、そんなことも今考えていて、そういったポイントをつける、あるいはのみ応援特典券のような、インセンティブで出していたものも切り替えることによっていろんなメリットが生まれてくるんだろうという思いもあり導入したいと思っている。

・加盟店を増やすということはぜひやってもらいたいと思う。市民にこのポイント制度を利用してもらわないと広がっていかない。なので、市民にとってポイントを使うことで何がメリットかを皆さんと一緒に考えていきたい。例えば現金で買うよりも、このポイントを使って買ったほうが安くなるとか、1万ポイントたまるとプラス1,000ポイントもらえるとか、何かキャンペーンをやる。要は市民にとってこのポイントを使うことでメリットがないと替えてくれない。ポイントで買物することのメリットを皆さんにも考えてもらいたい。いかに普及させるかも大きなポイントじゃないかと思っている。

【参加者】市民に価値を感じていただくのも、やっぱり使えるお店が多くないとまず駄目だと思う。その中で言われたようなキャンペーンだったり、今まで組合の中で今のカードでやってきたようなポイント、販促みたいなことは引き続きもっと違う観点でもできないかなと思っていて、それをやる上でもデジタルというのは非常にやりやすいツール。それを生かせばいろんなことができると思うので、これは他の地域の事例なんかを見ながら勉強していきたい。いろんな楽しいわくわくするようなことができればいいと思っている。

【市長】市内のいろんな事業所へ普及させることも大変だろうと思うが、私は恐らく市民がどれだけこれを使うようになってくれるかのほうがハードルは高いんじゃないかと思っている。実際に珠洲でこれがどれだけ普及しているかも把握しているし、あるデジタルの先進地に視察に行ったときに、デジタル通貨を始めようとされていて、その普及率を聞いた時に数字の低さにびっくりした。

【参加者】今はもう大分キャッシュレスも進んできて、私もデビットカードを使っているが使い出したらもう戻れないぐらい便利。現金はほとんど使わない。財布を持ち歩かないぐらい便利なので、そこを感じられたら市民の方々も使ってもらえるかと思う。やっぱりタッチ決済じゃないと利便性は低いとは思う。

【市長】普及の面で今ほど申し上げたような課題に、どう取り組んでいくかを共有したいと思うので、今後も協力していきたい。

【参加者】現金で購入される人ももちろんいるので、その方々の対応をどうするか。現金でお支払いいただくときもポイント付与する仕組みは現状でもできるが、ちょっとややこ

しい。事務の手間がかかるというか。その辺を分かりやすくクリアにできればというところ。次の段階で我々も意見を出して、アプリをつくり込んでいってもらうときに、お客さんにも僕らお店にも使いやすいものがないかと思う。

○インクルーシブシティ

【市長】能美市は、能美スマートインクルーシブシティということで、スマートというのはデジタル。インクルーシブというのは誰一人取り残さない共生社会。このデジタルの力を使って共生社会をつくっていきましょうという取り組みを2年前からやっている。

・これには莫大なお金がかかるので、今、内閣府や総務省、デジタル庁のデジタル田園都市国家構想交付金というのがあり、2年連続採択されていて3年目も今申請をしている、その中の一つの事業。どういったことかというを買物支援。ネット上で注文をすると、それを誰かが届けてくれるという仕組み。要は買物に行きたいんだけど免許を手放して行けない。それから、のみバスは私は便利だと思っているけれど、なかなかのみバスに乗れないという人がいたりして、買物弱者のような人たちを少なくするために、そういった配達サービスみたいなことをやろうとしている。

・そこには、いろんなものを置いたりする基地を造ったり、ドローンを使ってやろうかと考えていて、この事業をやろうとするとたくさんのお店に登録してもらったほうが、市民にとって、消費者にとってもありがたいので、ぜひ皆さんのお店もこれをスタートさせたときにここに登録してほしいなと考えている。

【参加者】市内の事業者だけでなく、いろんなところのお店だったりもそこにエントリーできる感じになるのか。

【市長】その物をどうやってピックアップしていくかが悩み。例えば商品が欲しいときに、デリバリーの業者さんにずっと回ってもらおうということになるとあんまり広げないほうがいいんじゃないかとも思う。そこはデリバリーの業者とどう話をするか。

【参加者】どこかの倉庫に商品を届けて、そこから配送を業者さんでやってもらうイメージか。

【市長】そうだと倉庫を造らないといけないから、それも難しいだろうと思っている。そういったことを令和6年度にいろいろ検証しながら、この仕組みをつくっていきたい。

【参加者】いわゆるデジタル公民館と言われているところの取り組みの中の一つか。

【市長】そうです、自宅に配送するものもあれば、公民館にお届けするものも出てくるだ

ろうと思っている。料金体系や商品によって変えていくこともあるんじゃないかと思う。そんなことを1年間かけて検証して進めていきたい。

【参加者】どこかで試験的に運用を始める感じか。

【市長】まだそこまでは考えていない、これからという話。こういった買物難民というか買物弱者の人というのは、高齢者だけでなく、例えば小さいお子さんを持った人なんかもなかなか買いに行けない。生まれたばかりの子どもを置いて買物に行くこともできないし、やはり赤ちゃんを抱っこしてというわけにもいかないの。そんな人が便利になるような、そんなことも考えている。

○震災対応について

【参加者】結構避難している人もいて、もうさすがに怖くて戻りたくないという人達がいたら、空き家とかを提供したりして能美市に住んでいただければ、人口も増えたり、空き家対策にもなったり、安心した生活が送れたりするんじゃないかと思ったが。

【市長】おっしゃるとおり。今能美市に我々行政が把握している空き家は約750件。750件の中で、ぜひ空き家を活用してくださいと空き家バンクに登録してある件数は10件に満たない。皆さん空き家は持っているが、別の人に活用してほしいという案件は実際はそんなに多くない。そこが課題。

・避難されている人には市営住宅を紹介もしているし、民間のアパート等もある一定期間無料で使ってもらえることになっている。国の災害救助法等を適用するとそうなるので、空き家の数は少ないけれども、市営住宅や民間のアパートを活用してもらうことで、盛んに紹介している。

【参加者】750件ぐらいある空き家を持っている人達は何で登録しないのか。

【市長】別荘や倉庫として使ったり、まだしばらく持っていたいとか、そういった理由が多い。

【参加者】片づけたりするのが面倒ということもあるのかな。人に貸すにはそれなりの状態にして空き家バンクに登録しないといけないということなのかな。

【市長】空き家にしておいても税金は払わないといけない。貸したり、買っていただければ収入が入るので、そのほうがプラスじゃないかと思うんだが実態はそうじゃない。

【参加者】大成町に「能美暮らしの家」というのがあるが、あれは市のほうでされているのか。

【市長】あそこは移住の相談窓口で、「ぶなの森」に運営してもらっている。あそこに行くと能美市に住みたいけれどどんな物件があるか、どんな仕事があるか、どんな支援制度があるかを相談する窓口でもあるし、寝泊まりしてもらえます。ちょい住み体験の場所。

【参加者】ほかにも何件かあるか。

【市長】和気町にも1件。市内に2件持っている。

【参加者】なかなか活用されない空き家は何百件もある。もったいない。

【市長】そう思う。

【参加者】今能登から140人くらいの方が避難されてきている。今避難生活されている方は、日中あまり実際にやることがないというか、何か大変な思いをされているのではないかと。

【市長】中には申し訳ないので役に立ちたい、何かやらせてくださいというお話もいただいているので、今後そんなことも考えていかなくちゃならない。結構皆さん同じ集落から来られている人は話しされたりして、くつろいでいらっしゃる方も多い。今もやっているが、健康教室をやったり、何か楽しく過ごしてもらえそうなそんな機会もつくりたいと思っているので、ぜひのみ商業協同組合の皆さんもお越しいただいて皆さんを朗らかにしていだければと思う。

【参加者】そういう方々のために我々はどんなことをしたら役に立てるのかと思う。

【市長】いろいろまた皆さんもアイデアを出していだければ、社会福祉協議会が窓口になっているので、そちらに登録していだければいろいろとご相談があると思う。

○おわりに

【市長】

・一昨年の8月4日の大雨のときは朝の5時半で、多くの人たちから防災行政無線で知らされても仕事に行っていて分からない、刻一刻と変わっていく情報もなかなか把握できなかったとお聞きした。ぜひメールで伝えてほしいと言われたので、LINEで配信するようにした。

・元日に能美市で津波警報が初めて出た。特に海沿いの皆さんが車を飛ばして、泉台、物見山、庁舎に来られた。こういった行動を、能美市とすると津波警報が発表されたときに、皆さんにどう対応していただくかをお伝えしていかないといけないと思っている。当日は1月1日の元日というまた特別な日だった。そんなときでもやはり市民の皆さんが安全に、それからしっかりと避難活動をしてもらえるような情報をどうお伝えするかも今

令和5年度第5回市長と能ん美りカフェトーク

後検討していきたいと思っている。

○開会